

○第10回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：平成27年11月11日（水）13:00～14:30

開催場所：近畿地方整備局 新館 3F A会議室

出席者：近畿地方整備局河川部長（代理）、近畿中国森林管理局治山課長、紀南河川国道事務所長、紀伊山地砂防事務所長、三重県県土整備部長（代理）、奈良県県土マネジメント部長、和歌山県県土整備部長（代理）、天川村長（代理）、五條市長（代理）、野迫川村長（代理）、十津川村長（代理）、田辺市長（代理）、新宮市長、熊野市長（代理）、紀宝町長（代理）、上北山村長（代理）、下北山村長（代理）、北山村長（代理）、関西電力(株)水力事業本部副事業本部長、電源開発(株)西日本支店長

議事要旨

1)各機関の取り組み状況の報告、意見交換

(1) 堆積土砂の対応状況について

- ・近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県、紀の川ダム統合管理事務所、関西電力(株)水力事業本部副事業本部、電源開発(株)西日本支店より資料1について資料1-1より順に説明。

→意見無し

(2) 治山・砂防の取り組みについて

- ・近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県より資料2について資料2-1より順に説明。

→意見無し

(3) 河道閉塞の対応状況について

- ・紀伊山地砂防事務所より資料3について説明。

→意見無し

(4) ダムの運用改善及び情報提供の対応状況について

- ・電源開発(株)西日本支店、紀の川ダム統合管理事務所より資料4について資料4-1より順に説明。

→（平成27年）台風11号の出水で、新宮市で床上浸水が20棟ほど出た。7月17

日 4 時半には小森・二津野ダム合算で 9,225m³/s の放流があった。池原ダムでピークでも余裕があったように見えるのに、もっと放流量を抑えてもらうことはできなかったか？コメの刈取り前に田畑が 24 時間も浸かってしまった。(新宮市)

→ (平成 27 年) 台風 11 号の出水では、予測降雨より多い降雨があった。降雨のピークも見えない中では、下流の流量ピーク時にダムの空き容量が無くなるというリスクもある。今後、降雨予測の精度を上げ、更なる放流量の低減に向けて検討したい。(電源開発(株)西日本支店)

→ 今回の出水は、平成 23 年台風 12 号と同じようなルートを通っており、台風通過後も、雨が降る可能性があった。そのため、予測降雨よりも多い降雨があった場合、下流の流量のピーク時にダムの空き容量がなくなるという可能性もあった。そうすると、入ってきた水をダムに貯めることができず、そのまま流すことになってしまう。出水が終了した時点で、ダムの空き容量がない状況が、最も理想であるが、降雨の終わりの予想は難しく、非常に困難である。出水が終了した時点でダムの空き容量が無い状況にするための運用の方法について現在、全国で検討中である。また、今回、風屋・池原の二つのダムで約 7,500 万 m³ を貯留している。関東の鬼怒川の災害は、記憶に新しいと思うが、その際に鬼怒川上流の 4 つのダムでは、約 10,000 万 m³ を貯留している。それに比べると、2 つのダムで鬼怒川のダムの 75% に相当する量を貯め込み、非常に多くの貯留を行ったことは理解して頂きたい。(近畿地方整備局 河川部)

(5) 濁水長期化軽減対策について

- ・電源開発(株)西日本支店、近畿地方整備局河川部より資料 5 について資料 5-1 から順に説明。

→ 新宮市で計測している南桧杖地点の 9 月の平均濁度は、昨年よりも高くなっている。これでは、濁水防止フェンスの効果が無いように思えるが、いろいろな対策をして頂いている状況で、期待をしていたが、昨年よりも濁度の状況が良くない。見た目にも濁っている状況であり、納得できない。市民共々不安である。また、今年の 10 月の熊野速玉大社の例大祭の時に濁度の高い水が流れていたが、そのような行事の際には発電停止などは行ってもらえるのか？(新宮市)

→ 9 月の濁度が高い状況においては、降雨日数が多く、その結果、濁水早期排水の期間が多くなってしまったためである。また、今年度の出水では、ゲート放流

を行った日数が 57 日、行っていない日数が 66 日となっている。ゲート放流を行っていない時に、濁度が 20 度を超えた日数は 2 日となっている。つまり、南桧杖で高濁度となっている理由は、出水が多かったためと考えられる。過去のデータを踏まえて、また正式な場でご説明したい。例大祭の件については、ご要望の流量に制約があったために、北山川筋と十津川筋の両方から供給せざるを得なかったが、極力、濁度が低い北山川筋から供給するように対応した。日付指定で発電量を低減することは可能であるが、ダムの中の濁度の状況も考慮した放流を行うこともあるため、必ずできるとはお約束出来ない。(電源開発(株)西日本支店)

→9月にはダム湖の水がきれいになりかけている時に、雨が降り、濁水が流入するといったことが何度かあったため、濁度が高い日が多かった。また、近畿地方整備局河川部の資料は、昨年よりも降雨が多かったが、同じくらいの日で濁度が 20 度以内に収まったという説明になっている。また、その他の地点では、降雨が多くても、濁度が 20 度以内に収まるのが、早いので、流域対策が行えているのではないかと資料になっている。また、1年間のデータの積み上げなので、具体的には分からないこともあるが、今後のデータを蓄積しながら、必要に応じた対策を行っていきたい。また、シミュレーションによる解析を電源開発(株)が現在、実施中。結果については、次回の協議会で報告したい。(近畿地方整備局 河川部)

(6) その他について

堆積土砂の撤去についてはダム運用同様、水位を下げて頂く大変効果的なこと。今年の 11 号では三重県の相野谷で激特堆積土砂での撤去をやって頂いて 1m の効果はあったと伺っている。改めて和歌山県、三重県には上流部の堆積土砂の撤去のお願いをしておきたい。(新宮市)